

著者が、自らの足でフランス各地を  
巡り歩いた当時を回想したエッセイ



# 脱ミシュラン

## フランス地域巡り —やまさか爺回想録—

やまさかのぼる 著

A5判・408頁 定価 本体：3,000円+税

弊社刊『自治実務セミナー』の  
好評連載「やまさか爺のふらんす  
回想録」を書籍化。

公共交通機関と自らの足で市役所や  
役場などを巡り、日本の自治体職員  
の視点で見て感じたフランスでの  
暮らしを綴った回想録。

写真や挿絵も  
多く掲載

＊序の巻 プロローグ—マロニエの記—

### ＊序の巻 プロローグ—マロニエの記—

○マロニエの花を見ると…

時は春、マロニエの木々に可憐な花が咲く。我が懐かしのフランス、住まいの意趣しに見えたマロニエの大本も、圧倒的なボリュームの新緑にアクセントを添えるように美しく咲いた小さな花々の群に彩られているだろう。マロニエは、新緑の葉が大きく広がってから、花が開く時期に至る。花が葉の中に隠れて見えにくいから、我が国では人々が花を意識しないことが多い。

そのあたりは本場フランスでも変わらない。爺は、フランス暮らしのつれづれに、呑み仲間を誘って、パリ市内のモンソー公園でベンチに陣取り、かの国のブドウ酒を手にしてマロニエの花見としゃれ込んだことがあるが、通りがかる私人たちは「妙な呑み助どもが…困ったものだ」というような表情ばかりだった。

○マロニエの花の姿は？

爺は、花を我が手で引き寄せて観察したことがある。一団になった沢山の蕾がパリの空に向け円錐型に分布して千生り蕪草の形をつくる。そして、一つ一つの蕾が順次、下の方から開花する。個々の花は種類によって形態が異なるようだ。素人目ゆえアテにはならぬが、花びらの数も4枚か5枚ぐらいの種類から、八重桜風に幾重にも重なって見えるものまで。雄しべは数本あるが、雌しべがよく分からない。花びらは、まるで和紙のような質感で楚々としてゆかしい。個別には大変小さな花なのだが、まとめて咲きそろうと、紙精たちが協力し合って、真っ白や紅色や、あるいは白に紅をさした小さな神楽鈴をつくっているようだ。



花見に吟々句を詠む爺。



セーヌ川岸のマロニエの木



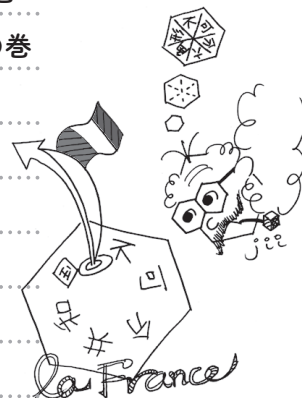
第一法規

東京都港区南青山2-11-17 〒107-8560  
<http://www.daiichihoki.co.jp>

Tel. 0120-203-694  
Fax. 0120-302-640

# 目次

- \*序の巻 プロローグ -マロニエの記-
- \*巻その1 「<sup>やさ</sup>優し国フランス」の巻
- \*巻その2 「脱ミシュラン」日和見物見遊山術の巻
- \*巻その3 フランス縦横無尽(1) 何はさておきブルゴーニュの巻
- \*巻その4 フランス縦横無尽(2) ブルターニュ「地の果て」への巻
- \*巻その5 フランス縦横無尽(3) 我がいとしのアルザスへの巻
- \*巻その6 地域の風土と味覚を大切にの巻
- \*巻その7 地域の風土とお酒を楽しむ(1) ブドウ酒の巻
- \*巻その8 地域の風土とお酒を楽しむ(2) 麦酒の巻
- \*巻その9 地域の風土とお酒を楽しむ(3) 地酒いろいろの巻
- \*巻その10 「絵になった風景」を求めての巻
- \*巻その11 絵になる酒場あれこれの巻
- \*おしまいの巻 エピローグ -語りえぬことども-



いわゆる「ミシュランガイド」で紹介されている観光地ではなく、公共交通機関と著者自身の足でフランスでの日常生活を楽しみながら、各地の市役所や役場などを巡り、フランスの地方分権制度についてエッセイ調の読みやすい文章で執筆。

詳細・お申し込みはコチラ

<クレジットカードでもお支払いいただけます>



第一法規

検索

CLICK!